

何もしなかったら進展もない。 5年後の龍神を良くするために行動を起こした



伊藤研治さん

株式会社龍神村 代表取締役 伊藤 研治

この夏、龍神村に「ドラゴンミュージアム」がオープンしました。このミュージアムを運営する株式会社龍神村の伊藤代表に、龍神村の現状、田辺市との広域合併、地域振興への思い。株式会社龍神村の活動などについて聞きました。伊藤さんは、土木建築業を営み、長く龍神村商工会々長をされています。聞き手は柳田理事です。

見として「河川整備や道路整備が自然を壊している」といふことでした。それに自分はちょっとカチンと来て、詳しく聞くと、「川は壊れる、自然は壊れる」と言う。思わず反論して「勘弁してくれ、自分が昭和33年に生まれてここで育つてきたが、ここ歴史を知らない、勝手なことを言わないでくれと。小学生の頃まで、今でいうインフルエンザ、昔は感冒と言つたけど、4、5歳位で感冒にかかる。山仕事でワイヤーに巻き込まれて腕を落とす人もよつちゅうやつた。林業の村やからなん死んでしまった。それがだんだんなくなってきて、今やもう感冒で死ぬ人は誰もなれる。それは昭和40年頃までかかる。病院に行くのに2時間10分かかる。自分で、さらいに最近では、ドクターヘリも整備された。自分達は、50分あつたら行けるわけ

た田辺市で、18年たつて合併の成果なり問題点を炙り出そうと、本宮、龍神、中辺路の人たちの声を聴いて懇談会などの取り組みをしているところです。そんな中で、やっぱり人口減少、過疎化の問題が深刻だとあらためて感じていますが。

伊藤：少し関係のない話をさせてもらうけど、ここ15、6年前位から龍神村へ1ターンしてこられた方が少しづつ増えてきた。その人たちと懇談する場があつて、その中で、その人たちのほぼ一致した意

見として「河川整備や道路整備が自然を壊している」といふことでした。それに自分はちょっとカチンと来て、詳しく聞くと、「川は壊れる、自然は壊れる」と言う。思わず反論して「勘弁してくれ、自分が昭和33年に生まれてここで育つてきたが、ここ歴史を知らない、勝手なことを言わないでくれと。小学生の頃まで、今でいうインフルエンザ、昔は感冒と言つたけど、4、5歳位で感冒にかかる。山仕事でワイヤーに巻き込まれて腕を落とす人もよつちゅうやつた。林業の村やからなん死んでしまった。それがだんだんなくなってきて、今やもう感冒で死ぬ人は誰もなれる。それは昭和40年頃までかかる。病院に行くのに2時間10分かかる。自分で、さらいに最近では、ドクターヘリも整備された。自分達は、50分あつたら行けるわけ

にしたらやつと人並みの生活ができるようになつた。今その状態で龍神に来て自然が素晴らしいと手放して言うのはやめてくれと。ここで皆さんと共に暮らしていくこうと思つたら、昔のことを一回調べて自分が言つていることが本当なのか嘘なのか確かめてくれ」という話をした。それから以降、道路整備が不要だとか、龍神では文句を言う人はいなくなった。なんでこんな話をしたかと言うと、やっぱり病気や事故などで死にたくないから、町や大病院が近い所へ出て行つた。もつと文化的な生活が安全にできる大阪や和歌山市へ出て行つた。その結果が昭和30年の8500人から今3000人割るような人口になつてきたと思つて

龍神村の現況と 何とかしたいという思い

柳田：働く場所でいえば、どんなところがあるんですか。伊藤：公務員、先生、観光で温泉があるけども、大きくなれば龍神温泉と小又川温泉の宿泊施設、森林組合や建設土木や旅館には大勢働きにい

目次

何もしなかったら進展もない。 5年後の龍神を良くするために行動を起こした	株式会社龍神村 代表取締役 伊藤 研治 1
第12回 わかやま住民要求研究集会	
第3分科会 産業・経済・町づくり	
コロナ禍の飲食業の状況と和歌山民商の取り組み	
和歌山民商会長 井上 耕さん 5	
県下各地から②	
白浜町の地域公共交通を充実させるために	
白浜町議会議員 横畠 真治 8	
お知らせ(グループLINEに参加を) 8	

わかやま住民と自治

発行／和歌山県地域・自治体問題研究所
和歌山市太田2丁目14-9 太田ビル203号
TEL・FAX 073-488-3127
jichiken@crux.ocn.ne.jp 2022年 11月号



ドラゴンミュージアム

伊藤：結構いっているよ。例えば上御殿、下御殿というような旅館さんへパートで大体平均3人ずつぐらい、まかないや手伝い、布団敷きなどで通っている。でも今はコロナでほぼ全滅状態。自分は商工会々長を仰せつかつて13年になるけど、今は大阪が緊急事態宣言を出すかどうかが一番気になつていて。発令したら必ず京都、兵庫も一緒になり、次の日からキャンセル、キャンセル。自分は今季^{きらり}楽里龍神という旅館の副理事長もしていて、旅館の状況もわかる。この間大阪が赤から黄色にな

柳田：この辺は、農業では生活できない？
伊藤：でも農業している方が、確かに2人おられる。詳しくは知らんけども、都会のスーパーさんと契約をして注文に応じて野菜を出荷するみたい。米で生計を立てている人はいない。
柳田：梅とかで生活している人もいるの。

伊藤：士建業者は、業界で1社。業界以外で1社。以前は25社あつたやつが今もう半分以下。仕事量によつて減つて来たといふとこ。極小さいとこが大きなとこが残つて、間はみんな閉められた。

で15、6万程度の職場があれば、帰つて来てくれると思つてゐる。みなべ町では20万ないとあかんけど、龍神では手取り15、6万あつたら生活で生きるからな。例えばそれで2人帰つてきて、よかつたという雰囲気だけ作つたら、釣られて帰つてくる人たちが出てくると思う。家族も一緒に連れて帰つてきてくれたらなおの事良いし。

伊藤：龍神では、ほんの一部の地域以外は、個人的には限り集落と思う。昔からやけども、高校卒業したら、とにかく都会への憧れで行ってしまふ。でも心の温かい龍神村へ戻つてきたいと思っている人はたくさんおる。しかし、そのネットは、働く場所。これをなんとか4、5年かけてつくりたい。この働き場、具体的にどうかと言えば、手取り

田辺市との合併の功罪

田辺市との合併の功罪

柳田：龍神村と言えば、まあ龍神温泉や。全国的にも有名やから、それで押していくれる部分がある。元の龍神村やつたら、そこを中心にして行政を進めていけると思うけど田辺市の中の龍神村になつたら、総合的に各地の事をしながら、といけない。合併の時に気になつていたんだが広域合併して、最初は辺地の事もいろいろやつてくれるけど、最終的には、市街地には力を入れるけど辺地は放つたらかし。龍神村が合併で、良くならな

な。そういう人が中心になつて、もうちょっとなんとかしたいと思っている人らが12名程おつて。ちょうど10年ほど前から4、5年続けて、一泊二日で出雲大社や黒部ダムに行つたりした。うろうろしたらそこと比べるさかい、彼らは、じつとしているわけにいかななどという気持ちを持つてくれた。

今まで以上に体力をつけない会社を経営するにあたって、くつか意味があつて、一つは私はなるほどなーつて、まあでも必ずそうなるやろなど思つた。

でも反面。それと対比できる事ではないかもしかんが一応参考までに。建設屋は合併大反対だつた。でも時の流れで建設屋の声ら関係なしに結局合併となつた。合併になつて4年後、みんなが良かつたと口にするようになつた。今まで今に至つては、こんな弊害があると、自分の体験ではそうやと言つていた

路開発公社を定年退職後うちらの仕事を手伝つてもらつてゐる人がおつた。その人が子どもの頃、富貴村と花園村で高野町と合併する話でみんなワイワイ騒いだ。それで花園は独立独歩で行くし、富貴村は高野町と合併した。その結果だけを見れば、花園村は学校を新築し保育所まで整備して、役場も立派な2階建てになつた。富貴村は木造校舎の



ミュージアム展示作品

と生き残れない。だからその努力を続けてきた。それで会社が強くなつた事に気づいた。例えば単価競争でも一個の単価を現場と照らし合わせて、一つ一つカットしたり積み上げたりする。そうしたことを行つくり返すことによつて、眞面目にもなり賢くもなり、会社も体力がついてきた。そういうのもいっぱいあると思う。

柳田：ところで、テレビで放送していた、河川敷でバーベキューを出来るようにしたり、埋もれている観光資源を発掘するのにあちこち歩いて回つたとか、古道を整備したという話もしていたが、どんな取り組みをしているんですか。

伊藤：「龍の里造り委員会」というのを田辺市と一緒に作つて、そこへＩターン者とか、さつき言った青年部の人らで組織して、それで部会に分かれ、食文化を見直そうとか、熊野古道では奥辺路っていう

(株)龍神村の立ち上げと
ドラゴンミュージアム

砂さんのおかげで 行政の格差を、今まで感じたことなくきたな。また逆に、行政に頼つてはいるだけじゃないんだ。自分らでなんとかしていかないと、いうふうになつたのもあるわ。

後、酒のサンワさんが買い取つて、それも6、7年で引き上げて、その後10年間ほど廃屋で残つて、年々建物が壊れそれに駐車場だけ空いていたので、夏はここへ車を止め河原でバーベキューをしてゴミをそこの便所の横に積み上げる。それをこの区の人らが処分をして、観光客と揉めてけんかになる。そんな事をずっと繰り返していた。そこに田辺市の建設課の空き家対策のプロジェクトが出来て、国からの補助も出る。それを龍

て、そこから金が還元され
くるという形になれば、継続
的になるということで、この
株式会社龍神村を立ち上げた
だから、今質問のあつたこと
についてまとめてかかつてい
る。

このドラゴンミュージアム
の場所というのが元々。地元
の有志がレストランをした

伊藤：株式会社龍神村を立ち上げるのに、一口20万円で呼びかけて30人集めて600万円の資金で会社をつくった政策金融公庫さんに、こういう計画でお借りしたと申し込んだら認めてくれて、今借金だらけでこれからもつとしないかなあかんから大変や。

また偶然に、元局長だった人が「海洋堂」の80歳代の会長さんと繋がりがあつて、こいつ建屋ができるとなつた時に、会長さんが、出身地の四国の四万十川に「カツパ館」というのを開設していくその「龍の版」をしないかという話になつた。「海洋堂

皆さんには喜んでもらつた。毎年の風物詩だった、観光客とのゴミ問題それが一気に解決できるということで、皆さん協力をしてくれて、ここを立ち上げた。

伊藤：それで、かなり反響があつた。
柳田：おかげでな。でも一つ気づいたな。今言つた流れの中で、何にもしてなかつたら何の進展もないし、進展ないからそれに対する協力者も出てないし、わけがわからんままでも、何かを始めたら必ずなんだかの偶然であるとか協力者であるとか、これは偶然じゃなく、行動した、始めたからやと分かつた。

方で183点、展示していく
ますが、皆さんすごいわな。子
どもさんの実に可愛い龍もあ
るし、本格的に精巧にできた
のもあって、応募した作品は
その後、こちらで展示させて
もらおうという条件でお願いし
ています。それでここを「ド
ラゴンミュージアム」という

で人が多いから、でも真んのおかげで、行政の格、今まで感じたことなくな。また逆に、行政に頼るだけじゃいかん。自分でなんとかしていかないとふうになつたのもあるわ。

昔あつた道を調査する部会。青年部の人らがどんどん参じて、そういう事を2年やって掘り起こした。それを観光客誘致であるとか、物品の販売であるとか。要是夢語るだけでは長続きしない。そういうものを組織で取り上げてそれを商売にすることで、そこから金が還元されくるという形になれば、継続的になるということで、この株式会社龍神村を立ち上げただから、今質問のあつたことについてまとめてかかってる。

皆さんには喜んでもらった。毎年の風物詩だつた、観光客とのゴミ問題それが一気に解決できるということで、皆さん協力をしてくれて、ここを立ち上げた。

柳田：その資金は、株式会社龍神村で出したの。

伊藤：株式会社龍神村を立ち上げるのに、一口20万円で呼びかけて30人集めて600万円の資本金で会社をつくった政策金融公庫さんに、こういう計画でお借りしたと申し込んだら認めてくれて、今借金だらけで、これからもつとしていくかなあかんから大変や。

また偶然に、元局長だった人が「海洋堂」の80歳代の会長さんと繋がりがあつて、こいう建屋ができるとなつた時に、会長さんが、出身地の四国の四万十川に「カツパ館」というのを開設していくその「龍の版」をしないかという話になつた。「海洋堂

「 というのは国際的に有名なフイギュアメーカーで、大阪門真に本社があつて毎年ワンダーフェスティバルという全国のフィギュアファンや関係企業を集めて2日間のお祭りがある。そこで「龍神村龍の造形大賞」の募集をかけてみませんか」という事で、2021年2月と2年続けてやつた。両方で183点、展示していくますが、皆さんすごいわな。子どもさんの実に可愛い龍もあるし、本格的で精巧にできたりもあって、応募した作品はその後、こちらで展示させてもらうという条件でお願いしています。それでここを「ドラゴンミュージアム」という展示会館にしました。



童神温泉

うことで掛け流しにする。一週間開催するので毎日その条件で出すことができた。ここでも喜んでくれた。「わしも龍神に行つたことある」とか、「一回行きたいと思つてい

た」などと。その次に高島屋の難波店。ここでもやると、ありがたいな。どんどん出世していくなど。ところが、難波へ行つたら、龍神温泉を知っている人が半減した。泉北までは100%だった、難波に行つたら半分になつた。そこから7ヶ月経つた時に梅田阪急さんからこちらでも開催しませんかとなつて阪急でした。そうしたら、龍神温泉を知つている人は一割おらんかつた。「龍神温泉ってどこにあるのですか」という感じで当たり前や、大阪の北の方の人にとって温泉は有馬温泉。

柳田：それいつ頃の話。
伊藤：組まなつて言つたのは今から4年前。そこからもう訳も分からんと走つてきて今に至るまで。正直今でも正解なんかどうかは自分もわからぬ。けど何にもせんままよりも、多少間違いだつたとしても騒ぐ方が必ず正解なはずやから実に乱暴に進めていく
柳田：河原のバーベキューはどうですか。
伊藤：それは、今年試験的にやりました。食材の提供はまだ今年はやつてないけど、来年から本格的にしようと思つた。今年自分らがしたことは「ごみは必ずお持ち帰りください」っていう呼びかけとちよつと監視程度。おかげで今年は出したごみは100%持ち帰つてもらつた。
柳田：雇用の拡大を図りたいということですけど、そちらの見通しはどうですか。
伊藤：わからんと言うのが正直なところ。とりあえず皆にね。一年間はボランティア。ここへ来る受け付けや、横の周辺整備も含めて弁当持ち出しが、でもまあ2年かかるな1年と思つてたけども、やつ

ぱり甘いことないわ。
一応2年間無報酬でやつて
みて、お金が残るはずやから
3年目にはいくばくか、とにかく
若い人に配つてと今は思
つている。乱暴なもんや。5
年後には、ここで働く人の給
料を出すように持つていきた
いと思う。大体手取り15、6
万程度になるようにな。
柳田：今日はここを通り過ぎ
て場所がわからんかった。大
きな看板ほしいな。
伊藤：みんな通り過ぎて引き
返してくる。この屋根に大き
な龍を這わすしかないと思う
けど、予算がないわな。看板
を立ててのぼりをあげてるの
やけど、看板じや気づいても
らえん。中山路郵便局と案内
する方が分かりやすいのかな
と思っている。ドラゴンミユ
ージアムみんなつべん見に
来てもうてよ。
これからも、株式会社龍神
村で、色々なアイデアを具体
化して、龍神村を盛り上げて
行くさかい注目しておいてよ。
柳田：ここで育ち、龍神村を
良くして行こうという思いが
今の行動につながっていると
思います。仲間の皆さんと共に
に、前に進めて行ってください。
本日は、ありがとうございました。

第12回 わかやま住民要求研究集会

第3分科会 産業・経済・町づくり

コロナ禍の飲食業の状況と和歌山民商の取り組み

和歌山民商会长 井 上

たけし
彪 さん



井上彪さん

10月8日に和歌山市のプラザホープで開催された第12回わかやま住民要求研究集会の第3分科会で報告された「コロナ禍の飲食業の状況と和歌山民商の取り組み」について掲載しました。報告者は和歌山民商会长の井上彪さん、司会進行は和商連の西均さん、助言は研究所理事の鈴木裕範さんです。

みなさんこんにちは、新内（アロチ）でラーメン屋をしています。親父の代からですが親父は始めて1年で死んでしまって、私は16歳から屋台でラーメン屋を始めて今年で62年になります。新内というのは和歌山市の夜の繁華街です。スナック、飲食店が約800軒ほど。500m四方に軒を並べるそういう街です。

コロナが始まった頃、中国で発生して、日本に来た豪華客船でコロナが発生しました。和歌山で一日2000人の発病とかすごい状況で、最近やつと300人とか200人に落ち着いてきて店を開けています。

私は民商で、スナックの会員さん40軒位、集金し

**客が戻らず、
家賃が出ない**

いう店もありました。以前はよく流行ってお客様がいっぱい、周辺を回って2、3回行かないと集金できない。そんな店でも、今は誰もいないか精々1人か2人。ほとんど街の中を人が歩いていません。金曜、土曜になれば少しは若い方が出てくるのですが、ちょ

つとガラが悪い。ワイワイ騒ぐばかりで、コロナ前後で客層がコロツと変わってしまった。

スナックのママさんが一番困っているのが家賃です。家賃がとにかく出ない。一週間に金、土以外にお客さんが来ないのが普通。それなりにママさんも



第3分科会の様子

たり相談にのったりしています。集金に行つた時に「最近どうですか」と聞いて回ったのですが、まあ100%売上はダウーンです。お客様が戻っていると軒もいません。なかには、一週間誰もこないという店が一軒あり、一人だけと

いう店もありました。以前はよく流行ってお客様がいっぱい、周辺を回って2、3回行かないと集金できない。そんな店でも、今は誰もいないか精々1人か2人。ほとんど街の中を人が歩いていません。金曜、土曜になれば少しは若い方が出てくるのですが、ちょ



新内の街の様子

努力して、お惣菜をカウンターに並べて無料で提供している店もあります。それでもお客さんが来ないと商売にならない。お客さんに電話するのですが、「会社から出て行つたらあかんと言われている」と返事されたらそれ以上言えない。お昼から働きに出るママさんもいますが、不景気で働き

先も少なく、ママさんも高齢化てきて、先の見えない状態。いつまで商売できるのかなあというのが現状というか、そういうところまで追い込まれています。

それと今大変なのが、借入金を借りているお店。よいよ返済の時期が来ています。この返済を何とか伸ばしてもらわないと、家賃

も払いかねて

いる状態で借入金の返済は

とても出来ない。このまま

なら廃業も仕方ないという

のが8割方です。8割です

よ、それ位つまっている。返済を伸ばす

ように言つてほしいとか、

いろんな意見が出ています。

それと、支援金は申告の

時に、所得に入れなくちゃいけない。そ

れを所得に入れたら市民税

が課税になつたり、国保が何倍になつたり、入院した時の食事の援助とか、いろいろな特典がなくなつてしまふ。それで、ビッククリしているとスナックのママさんにお聞きました。この苦しい時に消費税を払つて、支援金つて困つているから出してくれたのに、そういうのもも税金の対象にするのは許せない。本当にそうだと思います。

ちょうど話が遡るので、飲食宿泊支援金というものが県から15万円出たのです。それで飲食宿泊はいいけど、付随する酒屋さんとか運転代行、おつまみ屋さん、おしぶり屋さんとか、スナック、飲食に関係しているところが全部止まっています。飲食宿泊だけじゃないということで、民商で県と何度も交渉してかなりの業種が支援の対象にするこ

とができました。それは運動の中で、民商としては一番大きな成果だつたと思います。

今、資金繩りが大変なのですが、この間も県庁へ行ったのですが、現金はもう支給しない。プレミアム商品券しか出さないというのです。でも、プレミアム商品券を持つてラーメン屋に来られても対応出来へんし、お金が入るのが遅いし、みんなも我々の街に関係ないと言つています。プレミアム商品券はやはりスピードなどの小売り大手に行つてしまします。一番支援してほしいのは現金ですが、この先出るような見込みもないし、民商さんなんとかもう一回出るよう言つてほしいとみんなが言うのですが、それが現金を出してもうまでの交渉まで行かない。市とも交渉したのですが、市もあんまり出ず気がないみたいやし、ともかく「お金がない」と言われたら終わりです。

10月からインボイス制度

というものが始まるのです。消費税は売上1000万円以下の業者が免税で消費税を払わなくても良いのです。が、会社に対して領収書を切るときは、「インボイス」と言つて、税務署が発行する領収でないと、会社の支払う消費税から控除できません。本来1000万円以下の業者に、消費税を払わなくていいのに、消費税支払い業者にならんと、「インボイス」の領収書がもらえない。このしんどい時に、消費税までまた復活するのです。それで、会社関係の客の多いスナックはかなり頭を痛めています。夜の街じやない下請けとか孫請けで「インボイス」の課税業者にならんと仕事のグループへ入つていけない。1000万円以下からそういう税金を取りながら今まで消費税を取らなかつたのに、インボイス制度を作つて、まだ苦しめてくる。本当にどこまで苦しめたら氣済むのか



街角の「みんなでがんばろうね」

西：コロナが始まって、中 小業者への支援金は、国が 最初、持続化給付金をや りまして、個人で 100 万円法人 200 万円上限で、 合わせて家賃の補助地域も ありました。それが終わっ てから、支援金 3ヶ月分 30 万円があつて、それ以降、 月次支援金と言つて一ヶ月 毎に 10 万円。それが続い て、最近なつて事業復活支 援金 50 万円があつて、それ が今年の 3 月で終わり、そ こで打ち切りになつていま す。和歌山県は去年 4 月か ら、飲食宿泊サービス業等 支援金で、15 万円支給する というのが、今年の 6 月ま であつたのですが、そこで 終わつてます。

私、62 年も商売しているので新内ではうちより古い店はないのですが、今までドルショックとかオイルショックとか不景気はあつたけど、これほど 3 年も続くような不景気はなかつた。

これ以上申し上げる事は無いのですが、民商として、こんな時に力になりたいのですが、なかなか自治

こんな時こそ力になりたい。生の声を聴いてもらいたい。

と思うぐらい腹立つ制度です。

西：コロナ以前とコロナ後で売上上げの変化など、数字の推移みたいなものはどうで しょうか。

井上：支援金の申し込み時に聞くのですが、現状を分析したらほぼ全員が 50% 以下です。中には 30% ほどの方もいるのですが、でも業種によつたら 20% 下がつた ら、営業できない業種もい るのです。スナックなら利幅があるのですが、利幅のない業種は 20% 下がつたらもうやつて行けません。

鈴木：井上さんのお話で、行政の方と交渉したりしてご苦労されていらっしゃるお話をされてましたが、確かに民商の出番であるけれども、行政がどうしてデータにつかに民商の出番であるけれども、やはり、もつと情報として民商としても発信していくべきではないかなどと思うのです。やっぱり今この報告を聞きまし

体と交渉しても、うんと言つてももらえない。あかん時に助けられないという、残念な気持ちです。それでも粘り強く、これからも自治体と交渉して、現状を訴えて、今苦しんでいるママさん達と一緒に行つて、生の声を聞いてもらおうというようなことも考えていました。

西：コロナが始まって、中 小業者への支援金は、国が最初、持続化給付金をやりまして、個人で 100 万円法人 200 万円上限で、合わせて家賃の補助地域もありました。それが終わつてから、支援金 3ヶ月分 30 万円があつて、それ以降、月次支援金と言つて一ヶ月毎に 10 万円。それが続いて、最近なつて事業復活支援金 50 万円があつて、それが今年の 3 月で終わり、そこで打ち切りになつていま す。和歌山県は去年 4 月から、飲食宿泊サービス業等支援金で、15 万円支給するというのが、今年の 6 月まであつたのですが、そこで終わつてます。

鈴木：井上さんの報告を聞かせていただいて、私が思つている以上に厳しい夜の街の現状というのが分かりました。今、飲食業者さん、コロナ以前とコロナ後で売上上げの変化など、数字の推移みたいなものはどうで しょうか。

井上：支援金の申し込み時に聞くのですが、現状を分析したらほぼ全員が 50% 以下です。中には 30% ほどの方もいるのですが、でも業種によつたら 20% 下がつた ら、営業できない業種もい るのです。スナックなら利幅があるのですが、利幅のない業種は 20% 下がつたらもうやつて行けません。

鈴木：井上さんのお話で、行政の方と交渉したりしてご苦労されていらっしゃるお話をされてましたが、確かに民商の出番であるけれども、行政がどうしてデータにつかに民商の出番であるけれども、やはり、もつと情報として民商としても発信していくべきではないかなどと思うのです。やっぱり今この報告を聞きまし

う風に一般市民は思つて しまう。ここどころを民商として情報を発信してい く、そして様々な、アクシ ョンというか、さつきスナックママさんと一緒にとい う話もされていましたけど いかないと、現状打開は嚴 しいのかなと思います。

私は、和歌山に住んで 50 年になりますが、その頃行つた新内と今の新内を比べると、随分変わつたと思うのです。新内の持つっていた、夜の街の品格つていうのが、この 50 年で随分失われてき たと思います。かつてあつた古い料亭とかもビルに変つてすつかり姿を消してしまいました。そういう所がこれまで久しいと思つて いましたが新内から失わ ざらに今、新内というコミ ュニティの衰退が、コロナが拍車をかけるなど思いな

県下各地から②

白浜町の地域公共交通を充実させるために

白浜町議会議員 横畠真治

県下各地の運動や話題について、投稿をお願いしました。
今日は西牟婁地域です。

白浜町のバス路線の現状

2014年(H26年)10月
に日置川地域で路線バスが廃止され、公共交通を確保する



白浜町コミュニティバス（朝来駅）



横畠真治さん

ため、白浜町地域公共交通会議での協議を経て、民間事業者に委託して白浜町コミュニティバスが運行されました。路線はJR朝来駅を中心南北に結ぶ三舞線で、定期便と電話予約する予約運航を組み合せてています。運行は週6日(日、祝日除く)。運賃は大人1回300円(高齢者等200円)です。一方旧白浜地域では、路線バスの巡回バスが

走っています。

しかし、バスルートから外れた地域やバス停まで遠い高齢者等の方は、タクシーを呼ぶしかなく経済的な負担になつていて、ドア・ツー・ドアの移動手段の実現を望む声が出されています。

先進地の 三重県熊野市の視察

先日、乗合タクシーで地域

の交通手段を確保している三重県熊野市に視察に行きました。熊野市は人口16千人弱、面積373km²と広い行政区に集落が点在し、高齢化率44%で交通手段が重要な地域です。

熊野市では2010年(H22年)から山間部の一部地域で地域住民主体のNPOが交

通空白地域有償運送の制度で自家用車での有償運送を始めました。しかし、市全体に広げるのは難しく、熊野市では、タクシー業者に委託し乗り合いタクシー制度を導入。その後運行ルートを拡充させながら、現在に至っています。ルート

せて概ね全市をカバーし、運行は週5日(土日、祝日除く)で一日7便、電話で予約します。料金は1回300円。ドア・ツー・ドアの移動手段として車が入れる自宅まで来てくれますが、目的地は公共施設、医療施設・福祉施設、商業施設等あらかじめ決められています。

白浜町への要望

9月議会で、白浜町の今後の公共交通の充実について、町民の要望などから検討会の立ち上げや具体的な取り組み

を行っており、欠かせない公共交通の充実のため、今後も取り組んでいきたいと思っています。高齢者などで生活を続けて行く上で欠かせない公共交通の充実のため、今後も取り組んでいきたいと思っています。町当局は、令和2年に改正された「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」に基づく「地域公共交通活性化協議会」を立ち上げ、課題抽出のための住民利用者アンケートを実施し、これから白浜町の公共交通の在り方の検討をしていくとの考え方を示しています。

お知らせ

和歌山県地域・自治体問題研究所では、会員の情報共有、交流のために、グループLINEを立ち上げました。ぜひご参加ください。

スマホで「和歌山地域・自治体問題研究所友だち追加のQRコード」を読み込んで参加してください。

●グループLINE参加手順

- ① LINEを開く
- ②「ホーム」画面上部の△+をタップする。
- ③「友だち追加」画面上部のQRコードをタップする。
- ④「友だち追加のQRコード」を読み込ませる。



「和歌山地域・自治体問題研究所友だち追加のQRコード」

を要望しました。